

特集

中学生 × 市議会

見て知って感じて

五個荘中学校では、平成23年3月に発生した東日本大震災以来、同世代の仲間を励ますための“いつまでも応援します 五個荘中東北支援プロジェクト”に取り組み、贈り物の制作や募金活動、夏休みに現地中学校との交流やボランティア活動をされています。

今回は、その活動の中心である生徒会執行部の皆さんにお話をお伺いしました。



〈この活動に参加しようと思った理由〉

- 話に聞くよりも自分の目で見てみたいと思った。
- 災害時に自分がどう動いたらいいか、知りたかった。
- 自分ができることはないか、経験してみたかった。

■ 昨年も行ったが、現地の方の温かさ感激した。最近、ニュースにならないので、現状を見たかった。

〈自分の目で見て感じたことは〉

- 言葉にできないくらいの衝撃。
- 中浜小学校では、3階まで津波が押し寄せた跡があり、想像以上だった。
- 商店街を見に行ったが、津波の被害にあっただけでなく、津波の被害にあっただけでなく、復興の早さを感じた。

〈話を聞いて印象に残っていることは〉

- 同世代から「まちがどれだけ新しくなっても、以前のまちはもう戻ってこない」と聞き、心の傷は癒えていないと感じた。
- 「震災以降、仲の良かった友達とも離れ離れになった。周りの友達を大事にしてね」と言われた。
- 「安全な農作物を作っても、風評被害で売れないことがやっかい」
- 滋賀には原発はないので安全と思っていたが、現地で話を聞いて、隣の県に原発があり、放射能汚染の可能性を知り、怖くなった。

〈行ってみて何か変わったことは〉

- 学校の避難訓練の大切さを感じた。
- 災害時の水の大切さを知り、家で常備するようになった。
- タンスの上などの高いところに荷物を置かないように心がけたが、最近忘れがち。

〈最後に、どんな東近江市になってほしい？〉

- 東近江市と言えばコレ！という、有名なものがほしい。
- 空き缶やタバコのポイ捨てがないきれいなまち。
- 中学校周辺に外灯を設置してほしい。
- 市内のイベントをもっと盛り上げてほしい。
- 地域全体で盛り上げられるまち。
- 近くの住民同士だけでなく、市内で交流がある知り合いの多いまち。

聞き手

戸嶋 幸司 寺村 茂和



①支援に向けて街頭募金活動 ②行き帰りは夜間、バスによる強行移動 ③3階まで津波が押し寄せた、今は廃校となった宮城県中浜小学校の被害状況を視察 ④福島県飯野町の仮校舎で学校生活を送っている、飯館中学生への聞き取りと交流 ⑤宮城県女川町でのボランティア活動 ⑥全村放射能被害にあった飯館村の人たちへの聞き取りと交流 ⑦対談者 伊谷 孝太さん、大橋 未来さん、北村 紘大さん、小林 紗也さん、谷口 青空さん、中嶋 莉菜さん、林 奏空さん、深尾 輝さん（五十音順）